



四万十川に架かる五社大橋を渡ると、そこは高岡神社の中の宮。この地は弥生時代から人が住んでいて、それを裏付ける遺物が発見されている。大昔から人が住みやすい土地だった事が伺われ、広大な農地が開け、区画整理されたほ場が整然と並んでいる。

宮内といえば五社様。河野氏が社の前身である仁井田大明神を建立したのは、今から1320年前ごろといつことなので、歴史は古い。昔は1社であったが、空海が霊場を定めた時に5社に分座された。一の宮から五の宮まである故に、親しみを込めて五社様と呼ばれている。仁井田郷の総鎮守であり、「子ども一人では行かれんぞね」と言われた程、大祭には大勢の人のお参りでにぎやかであった。境内にはスタジイ、モミ、イチイガシなど大人一人では手が回らない程の大き木が霊気をかもし出している。社室の一つに中西権七が所持したと伝えられる長刀が奉納されており、大祭日には見ることが出来る。長さ5尺3寸、幅3分、厚さ8分柄の部分を含めると、7尺2寸5分という代物である。



水測票

それを抜いた、と古事にある。四万十川も100年に1回位は大暴れをするらしい。明治23年に起きた大洪水の水測票が中の宮にある。それまでは、沖の方にも家屋が点在していたが、それ以後は山手に居をかまえたといつ。宮内に行ったら見てください。ここまで水が来たのか、と驚くと思います。家屋が山手に移動した後の広い耕地に目をつけたのが、軍の関係者。最後の本土防衛にその布陣を急いでいた昭和20年に、この地に飛行場が作られる事になった。来る日も来る日も勤労奉仕による突貫工事で難儀したといつ。長さ1180m、幅150mの飛行場で、偵察練習機である「白菊」が配属された、とある。この飛行場は、牧場か草原に見えるように隠蔽されていたが、米軍にはハレバレで、爆撃されなかったのはその必要がなかったからだろう。そんな物語のある地区。



飛行場になった耕地

町のうごき	1月31日)		人口		前月比		出生		死亡		転入		転出	
	男	女	計	世帯数	増減	計	男	女	計	男	女	計	男	女
	9,282	10,373	19,655	8,820	4	-26	0	4	5	9	16	18	8	27
	1月中の届出)													

四万十川の水質状況	適正值 (mg/L)		1月12日	
	項目	適正值	測定値	状況
リン酸	5.0	0.699		
硝酸	0.5	0.486		
アンモニウム	5.0	測定値以下		
アニオン活性剤	1.0	0.650		
化学的酸素消費量	10.0	測定値以下		

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/>

広報『四万十町通信』はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)